

OPECプラスによる追加減産をどう見るか

IEEJエネルギーウェビナー

2023年4月7日

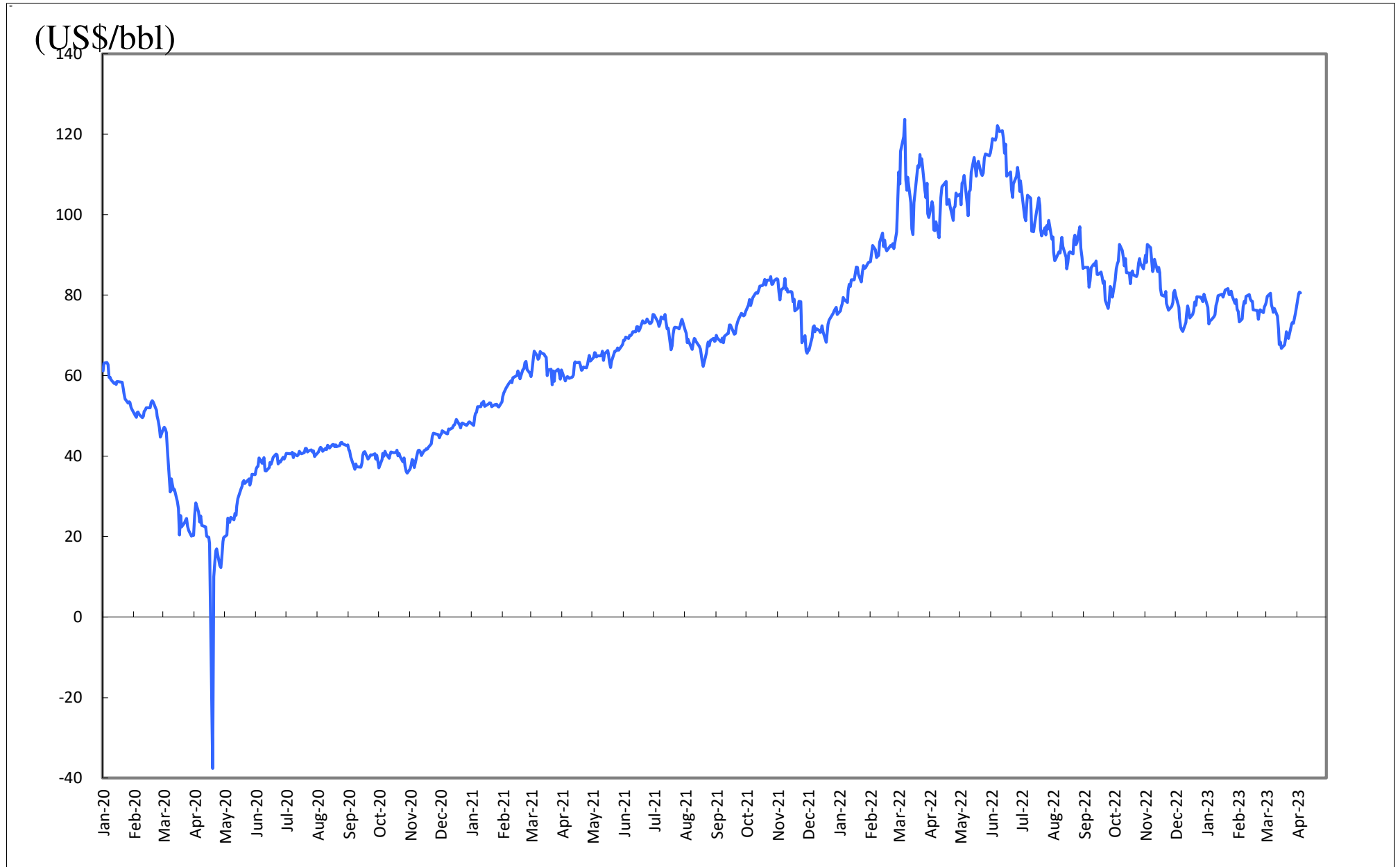
(一財) 日本エネルギー経済研究所
専務理事・首席研究員 小山 堅

2022年以降の原油価格を巡る主要な動き

- **ウクライナへの軍事侵攻と禁輸開始で急騰**
- **2022年前半は基本的に100ドル超の原油価格推移**
- **世界経済不安の高まりで同年後半は価格下落へ**
- **2022年10月、OPECプラス「200万B/D減産」で下支え**
- **以降、2023年3月まで、70～80ドル台での相場展開**
- **3月中旬、米欧の銀行破綻・金融不安でWTI70ドル割れ**
- **4月2日、OPECプラス「116万B/D減産」で80ドル台へ**

2022年以降のWTI先物価格の動向

2022年3月に130ドル超に高騰。最近70ドル割れの後、反騰



(出所) NYMEX資料等より筆者作成

OPECプラス「116万B/D減産」のポイント

- **2023年5月から年末まで、自発的に以下の追加減産実施**
 - サウジ：50万B/D、イラク：21.1万B/D、UAE：14.4万B/D、クウェート12.8万B/D
 - 他、カザフスタン、アルジェリア、オマーン、ガボンが参加
 - ロシアは、2023年2月に、3月から年末まで50万B/D減産を発表
- **市場は「116万B/D減産」を「サプライズ」と受け止め**
- **4月3日には原油は一気に上昇、80ドル台復帰**
- **「サプライズ」となった背景**
 - 200万B/D減産体制維持を支持するOPECプラス会合や主要閣僚の発言
 - 減産規模の大きさ
 - 2023年末までの減産期間
 - しかし、…

追加減産決定を巡る立場の違いと軋轢の浮上

OPECプラス

- この減産は「A precautionary measure」
- 金融不安の影響や世界経済に先行きに対する警戒感？
- 中国の需要拡大ペースと年後半の需給状況の見方？
- 「政治」と切り離れた石油市場の論理に基づく決定

米国・主要消費国

- 原油高騰でインフレ再燃危惧。ガソリン高騰の政治問題
- 油価下支え・高騰の持つ対口地政学インプリケーション
- 米国・西側のインタレストとの齟齬

今後の国際石油市場と原油価格をどう見るか

- OPECプラスの明確な価格防衛姿勢は下支え・上昇要因
- 「サポートライン」の形成とその切り上がり？
- 2023年の後半に需給タイト化が生じるか？
- 「中国要因」の影響で、上記には大きな差異も発生
- ロシア・その他での供給支障・不安の影響
- 世界経済減速がどこまで進むのか？
- 金融不安は払拭されるのか？ダウンサイドの影響は？
- 2023年原油価格はブレント90ドルが中心。上記要因次第で大きく振れる展開も。